

# 大学生におけるアルバイト満足度を左右するストレス要因

B33081 中山貴寅

## 1. 研究史

大学生にとって一番大切なことは学問であるが、大学生の9割がアルバイト就労の経験ありと回答していることからアルバイトは生活の一部となっている(株式会社インテリジェンス、2006)。

アルバイトを始めたきっかけは、楠見・滝川の研究によるとアルバイト動機の因子分析の結果から、一番長く続けたアルバイトを始めた直接的な動機として[金・暇因子(尺度得点5.33)](暇があるから、お金を得るためなど)の理由が多く、[仕事因子(尺度得点3.61)](アルバイトの内容に興味がある理由)が次いで多かった。

また小平・西田の研究によると学生がアルバイト継続を継続する理由として「特にやめる理由がない(20%)」が最も多く、次いで「勤務時間がある(17%)」、「仕事が面白い・アルバイトの仲間関係(14%)」といった理由が多かった(2004)。

## 2. 目的

研究史を見てもアルバイトを経験している大学生は多いが、長期アルバイトを続けることができず、辞めていく人も多いように感じる。その原因として、職場のストレスが関係していると考えた。

そこで本研究の目的として、大学生がどれだけアルバイトを経験しているのか、継続年数やアルバイト目的、継続理由など現状を明らかにし、どのストレス要因(仕事の負担度、仕事コントロール度、対人関係、仕事の適合性、職場支援)がアルバイトの満足度を左右するのかを明らかにすることを設定した。

## 3. 方法

福祉系大学生110名を対象者に質問紙調査を行った。質問紙は職業性ストレス簡易調査票及びアルバイトの現状に関するオリジナル尺度とフェイス項目で構成した。アルバイトの現状については各項目の割合をまとめ、ストレス要因(仕事の負担度、仕事コントロール度、対人関係、仕事の適合性、職場支援)は仕事満足度を目的変数として重回帰分析を行った

## 4. 結果

### 1. アルバイトの現状に関する結果

アルバイトを始めた目的についてまとめた結果、「娯楽費のため」と回答した人で44%、「生活費のため」と回答した人で16%、「貯金のため」と「社会勉強のため」と回答した人は14%であった。「学費のため」と回答した人は9%であった(図1参照)。欠損値の度数はなかった。

また、「その他」の自由記述欄に「自分の成長のため」と「ローンの返済」のためにアルバイトを始めたといった目的の記入が見られた。

アルバイトの経験についてまとめた結果、「現在アルバイトをしている(1ヶ月以内に辞めた人も含む)」と回答した人は80%、「過去にアルバイト経験があるが、現在はしていない」と回答した人は15%、「アルバイトはしたことがない」と回答した人は5%だった(図2参照)。欠損値の度数はなかった。

アルバイトの継続希望についてまとめた結果、「卒業まで続けたい」と回答した人は48%、「しばらく続けたい」と回答した人で35%であった。「今すぐ辞めたい」と回答した人12%であった(図3参照)。欠損値の度数は22であった。

また、この項目の「その他」の自由記述欄に「次のバイトが見つかったら辞める」、「別のバイトを見つけない」といった別のバイトに移るために継続するかどうかを検討している理由、「考え中」と継続そのものを検討している理由、「辞めなくてはならなかった」とそもそも継続できなかった理由の記入が見られた。

アルバイトを継続できた理由についてまとめた結果、一番多かったのは「人間関係」と回答した人で30%であった。次いで多かったのは「職場環境」と回答した人で28%、「経済条件」と回答した人で23%であった。「職務内容」と回答した人は10%、「労働条件」と回答した人は8%であった(図4参照)。

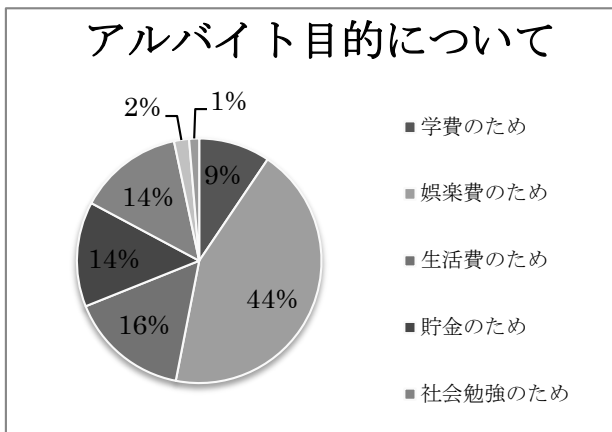


図1 アルバイト目的の割合

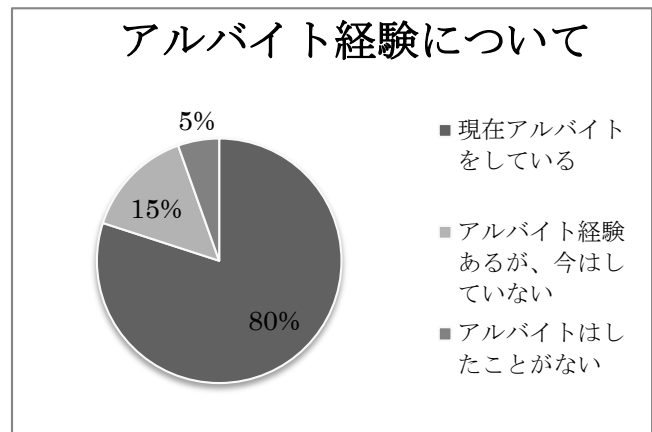


図2 アルバイト経験の割合

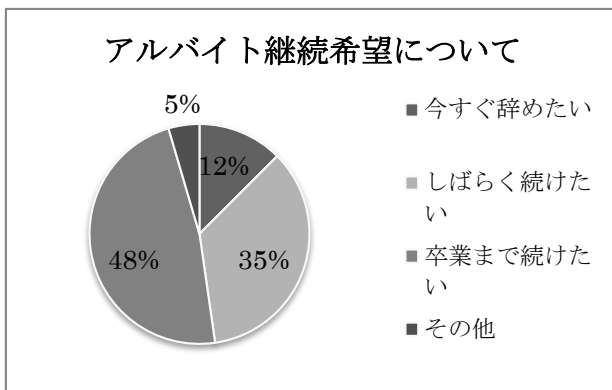


図3 アルバイト継続希望の割合

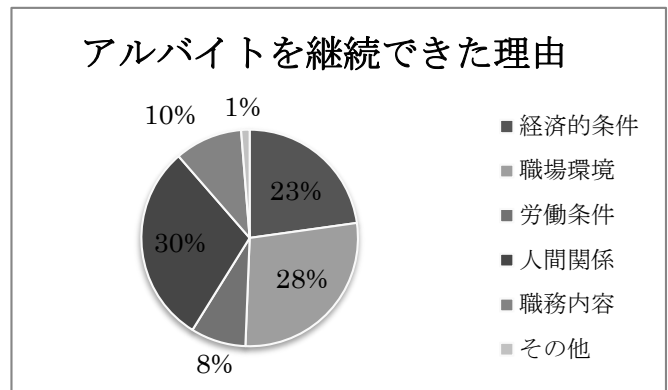


図4 アルバイト継続理由の割合

## 2. 仕事満足度を目的としたストレス要因の回帰分析の結果

ストレス要因である「仕事の負担度」、「仕事のコントロール度」、「仕事の対人関係」、「仕事の適合性」の4つと、剰余変数の「職場支援」を仕事満足度に影響する要因として採用し「仕事満足度」を目的変数として回帰分析を行った結果、「仕事適合性」、「職場支援」、「仕事負担度」のそれぞれについて、有意な偏回帰が見られ、決定係数は0.48であった。

## 5. 考察

9割の大学生はアルバイト経験があり、アルバイトの目的は全体の44%が「娯楽費を得る」為に働くことと回答した人多かった。大学生はサークルなどの飲み会や友人との交流が多いことからこれらの活動費を得ることを目的として働いているからと考えられる。アルバイトをしている人の83%が「続けたい」と回答しており、継続理由である「人間関係」が大きく影響していると考えられる。

学生の本業は学業であることから、仕事が自分に合っている、工作中トラブルの対処を手伝ってもらい、仕事量が適切でないと両立できないため、ストレス要因（仕事適合性、職場支援、仕事負担度）が満足度を左右する要因となっていると考えられる。

## 6. 主要文献

- 株式会社インテリジェンス 2006 高校生・大学生アルバイト実態調査2006 株式会社インテリジェンス 経営企画統括部 広報部 HR レポート 12月号
- 楠見孝・滝川智也 2002 大学生におけるアルバイトの意義：動機、選職、仕事態度の構造 日本教育心理学会総会発表論文集 (44)、327、2002-08-09
- 小平英志・西田裕紀子 2004 大学生のアルバイト経験とその意味づけ (日本青年心理学会第12回大会) 日本青年心理学会大会発表論文集 (12)、30-31、2004-08-25 日本青年心理学会
- 下光輝一 2005 厚生労働科学研究費補助金 (労働安全衛生総合研究事業) 職場環境等の改善等によるメンタルヘルス対策に関する研究. 平成14~16年度総括研究報告書, 93-133, 2005